

令和2年度 学校評価報告書

学校名	三田市立母子小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

ふるさとを愛し よく考え 心豊かに たくましく生きる 児童の育成。

2 今年度の学校重点目標

- ・教職員としての資質や実践的指導力の向上に努め、子どもたちに「生きる力」を育む教育を推進する。
 - ・複式学級の良さを生かした教育課程を編成し、少人数指導の充実を図りながら、個に応じた教育を実践する。
 - ・地域とつながり、地域に信頼される学校(三田型コミュニティ・スクール)を目指して、地域の特性を生かした教育を実践する。
 - ・教職員と児童・保護者・児童間の相互理解を深め、ともに生きる社会につながる教育を実践する。
- ※小規模特認校母子小学校の教育活動の様子を、オープンスクールや学校ホームページで積極的に発信する。
- ・教職員が心身ともに健康で、子どもと向き合う時間を確保できる職場環境づくりを進める。

3 総合的な自己評価

課題を見据えて具体的な提言や改善していく方向性が全ての教職員で共有できている。

4 総合的な学校関係者評価

ガイド学習での「おたずね」等により、進んで話すことが自然に行われており、コミュニケーション力が増していると感じる。コロナ禍ではあるが、感染症対策を徹底し、学校行事等に積極的に取り組んでおり、とても感謝している。今後も継続した取り組みをお願いしたい。地域としても更にバックアップ、サポートしていきたい。

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取り組み内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程 学習指導	複式学級の良さを生かした教育課程を編成し、学び合いによる学力の伸長を図る。	・算数科を中心として、「おたずね」によってコミュニケーションを深めながら、子どもたちが自分たちで進める学習に取り組み、主体的に学習に関わる姿勢を育てることができている。 ・学びを深めるおたずね等を教材研究時に予想し、教師の出場で意識させる支援が必要である。	・今後も算数科以外の教科でもガイド学習の要素を取り入れた授業を実践していく。 ・校内研修会で、「教師の「出場(でば)」について考察を深めた。主体的対話的な深い学びを実現させるうえで、めあてと振り返り時、また、大きく内容がそれた時、学びを深める時には「おたずね」によって支援することを確認し、次年度実践する。	・少人数を生かした効果的な指導を行ってもらっている。それがコミュニケーション力の向上につながっている。継続した取り組みを期待している。
	・基礎的基本的な知識・技能を習得し、自己学習力の向上を図る。	・毎朝の漢字・計算アタックの結果をグラフ化したことで、児童自身が伸びを実感でき、基礎力向上に効果的であった。 ・学校司書と連携したブックトークやビブリアバトル等により、読書への関心が増した。 ・児童に対する支援の方法について教師間での共通理解に努め、児童のつまずきがあれば迅速に対応できた。	・毎朝の漢字・計算アタックの取組は継続し、基礎基本の更なる徹底を図るとともに国語や他教科での書く力の向上を図る。 ・更に読書の習慣が継続し、読書する時間も長くなるように保護者も含め啓発していく。 ・朝の時間帯等を利用し、学習支援を行う。	・毎朝の漢字・計算学習の継続した取り組みがありがたい。ここで培われた力が卒業してからも生かされていることを期待している。 ・タブレットを使った学習に力を入れて、母子の教育の特色の一つにしてほしい。
	学びの場面での人々との交流を通して、表現力を育成する。	・今年度は感染症対策のため、地域の方に来てもらう等の本校ならではの特色ある取組が例年のように行うことはできなかったことが多かったが、スカイプやZOOM等を使った小規模交流で、お互いの取組を披露することにより表現力の成長が感じられた。	・校内での異学年交流、地域との交流、中学校区内の交流、他市の小規模校交流など様々な交流で更に効果的な表現力の育成に向けた取り組みを実施し、支援にあたる。	・地域との交流を位置づけ、人に出会ったり、場所を訪れたり、特産物を育てたりする等の学習に取り組み、特色ある教育課程を編成されているのは地域としてとてもうれしい。今後も続けていってほしい。
生徒指導 いじめ防止	・あいさつ、掃除、宿題、学用品の用意等、基本的生活習慣の形成を図ると共に集団生活の規律を守る態度を育てる。	・持ち物や提出物を学級通信や連絡帳で知らせてはいるが、ランドセルに入れ忘れる等、生活習慣がまだ確立していない。	前日に時間割を合わせる時に、持ち物や提出物も準備ができているかを確認する等、家庭と一層連携し、生活習慣の確立を図りたい。	・子どもたちのあいさつは非常に気持ちがいい。あいさつができる子どもたちにはいじめは起こらないと思う。いつでも気持ち良いあいさつができるよう、更に成長してほしい。
	・いじめに向かわない態度・能力を育てる。	・今年度は、「いじめ」や「いじめに結びつくような事案」はなかったが、どの児童にも起こり得ると考えてアンテナを高くもち、全教職員で情報を共有し児童と向き合う。	・普段から子どものことを話し、定期的に児童理解の校内研修会を持ち、早期発見、早期対応に努める。人権意識を高めていくための学習が、より実践に結び付くように内容を工夫する。	・子どものサインを見逃さないよう今後も研修に努めてほしい。
防災教育 安全教育	・災害から身を守る態度や、安全に気をつけて、生活する態度を育てる。	・発達段階に応じた学習や避難訓練を計画的に行い、防災に対する意識を高めることができた。 ・教師による登下校指導や地区児童会を実施することで、登下校をはじめ帰宅後も安全に気をつけて生活することができている。	・今後も防災学習や避難訓練を計画的に実施し、また地域と連携した防災訓練も年1回は実施し、防災教育を一層充実させたい。 ・遊具の使い方等遊び方や北門からの飛び出しに気をつけて横断するように今後も指導する。	・今年度は阪神地域合同防災訓練を本校で実施したことで、見学が中心であったが学校と地域が連携できたことはよかった。地域住民との交流が増えるほど、顔見知りが増え、それが防犯につながる。
道徳教育 人権教育 特別支援教育 国際理解教育	・互いを思いやり、自他の命と人権を大切にすることを育む。	・発達段階に応じて豊かな情操、道徳心、人権意識を高めていくための学習を実践することができた。	・豊かな人権感覚を身につけるために、温かい雰囲気のある学校、学級を目指す。	・人権感覚を育むために熱心な取り組みをしていただいている。今後も継続した取り組みを期待したい。
	・違いを認め、ともに生きる社会につながる態度を育てる。	・視覚障害の方、福祉作業所の人たちとの交流を予定していたが、感染症対策のため、実施できなかった。	・今年度は感染症対策のため、講師を招いての福祉講演会を実施できなかった。来年度は状況に応じ実施可能な取組を考えたい。	・母子は以前、アメリカやモンゴルと交流したことがある。地域の歴史を生かして国際理解教育に結び付けた実践をしてほしい。
保護者・地域 住民との連携	・地域力を生かした教育内容を創造し、保護者や地域の人々の参画と協働を得て、魅力あるコミュニティスクールを推進する。	・コロナ禍で様々な制限があったが、学校行事、生活科や総合的な学習を通して、地域の人材や素材を活かした学習や新たな行事に取り組めた。 ・一昨年度より実施している学校地域運営協議会を通して、これまで本校が培ってきた保護者、地域との連携を推進していくことができた。	・今後も、地域の方の指導を仰ぎながら地域の人材や素材を活かした学習に取り組んでいく。そのために、学習に協力していただける地域の方を募っていく。 ・今後も通信やホームページ等で積極的な情報発信につとめ、保護者や地域の方々が来校しやすい学校づくりに努める。	・地域と結びついた行事が今年度はできなかったが、保護者・地域のたくさんの方が参加し交流が深まる行事なので、これからも続けてほしい。 ・学校だよりや学年だより、また毎日更新されているホームページで学校の様子を日常的に発信していただいていることに感謝している。

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
7月	いじめに関する児童へのアンケート
9月	運動会についての保護者へのアンケートを実施
10月	オープンスクールアンケート
11月	芸術の集いについての保護者へのアンケートを実施
12月	いじめに関する児童へのアンケート
1月	教職員による学校評価
1月	学校・家庭生活について児童・保護者へのアンケート
3月	いじめに関する児童へのアンケート

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
5月	第1回学校関係者評価委員会(年間計画について)
7月	第2回学校関係者評価委員会(今後の行事予定について)
9月	第3回学校関係者評価委員会(今後の行事予定について)
9月	阪神地区合同地域防災訓練を学校地域で見学
12月	第4回学校関係者評価委員会(今後の行事予定について)
3月	第5回学校関係者評価委員会(学校評価のまとめ)

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
2月	保護者宛文書	児童・保護者の自己評価結果を配付	○
3月	全体懇談会・学級懇談会	上記の結果をもとに、学校の考え方を示すとともに保護者と次年度の課題を共有する	

